



TITLE:

資料紹介:Ежегодник книги
СССР(ソ連邦図書年報)

AUTHOR(S):

CITATION:

資料紹介:Ежегодник книги СССР(ソ連邦図書年報). 静脩 1965, 1(4): 6-6

ISSUE DATE:

1965-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36250>

RIGHT:

○ 第9回太平洋学術会議議事録 (Proceedings of the Ninth Pacific Science Congress)

太平洋学術研究連絡委員会(委員長 日高孝次 日本学術会議内)より、1957年にタイ国バンコックのチュラロンコン大学で開催された議事録の寄贈を受けた。太平洋学術会議は4年に1回開かれ、太平洋地域に関する多くの研究報告を発表しているが、今回の議事録も次の20巻よりなり、本学関係者の論文・報告もいくつか見られる。

vol. 1 Introductory and International Cooperation, vol. 2 Animal Improvement, vol. 3 Anthropology and Social Science, vol. 4 Botany, vol. 5 Chemistry in the Development of Natural Resources, vol. 6 Coconut Problems, vol. 7 Conservation, vol. 8 Crop Improvements, vol. 9 Entomology, vol. 10 Fisheries, vol. 11 Forest Resources, vol. 12 Geology and Geophysics, vol. 13 Meteorology, vol. 14 Museum, vol. 15 Nutrition, vol. 16 Oceanography, vol. 17 Public Health and Medical Sciences, vol. 18 Soil and Land Classification, vol. 19 Zoology, vol. 20 Climate, Vegetation, and Rational Land Utilization in the Humid Tropics.

○ Ежегодник книги СССР (ソ連邦図書年報)

Всесоюзная книжная палата. (全ソ図書館) 編

「ソ連邦図書年報」はソ連邦の出版目録である。これには官庁出版物、継続出版物、その他若干のものを除くソ連邦で出版されたあらゆる図書と、*Книжной летописьに登録されたすべての図書が掲載されている。年報は毎年2巻より成り、第1巻には社会科学・人文科学が、第2巻には自然科学が掲載されている。また両者の巻には各々補助索引—著者名、書名、民族語及び外国語別、外国語からの翻訳、件名索引—が付けられている。排列の大綱は(登録文献分類表に基づく)主題別で、その中を著者のアルファベット順に排列する。記述は著者名、書名、出版地、出版社、出版年、大きさ、ページ数、値段が掲載されている。

この「ソ連邦図書年報」は本館に1955年以降のものが所蔵されており、書誌学者、図書館員をはじめ、広く各種の専門家、科学研究者グループの参考書となっている。

* ソ連邦図書館が発行している新刊書または予告図書の分類目録で年間約5万部の図書を収録している。

○ Библиографик советской библиографии. (ソ連邦書誌の書誌)

Всесоюзная книжная палата. (全ソ図書館) 編

「ソ連邦書誌の書誌」は全ソ図書館・文献目録部に登録された図書目録である。これには文献索引および目録、雑誌の索引および一覧、書目一覧、書誌的活動の理論、歴史、方法論と、図書館学の諸問題に関する文献等が含まれている。記述は著者名、書名、出版社、出版年、書誌の掲載されている巻数およびページ数をも明示している。索引として著者名、団体名、地理索引がつけられている。本館では1956—1962年版4冊が所蔵されており他大学、研究者からも多く利用されている。

——故尾崎教授の蔵書農学部へ寄贈される——

昨年始め、三重大学から本学に着任された尾崎教授は、同年11月に他界された。

東京、滋賀、三重の各大学において、あるいは遠くカナダにおいて研究活動が続けられた同教授の業績はまことに大きい。専門の農芸化学、中でも植物代謝に関する研究は、学界に広く知られている。

このたびご遺族から、同教授の貴重な蔵書を多数ご寄贈いただいたので、農学研究に努力される教官、学生のために、それが高度に利用されるよう配慮してゆきたい。